

レジメン登録フォーマット

申請年月日	平成30年9月12日	使用開始日	
登録診療科	消化器内科・外科	申請医師	福永 睦 化学療法委員会承認# 平成 30年 10月
レジメン名	アービタックス【2回目以降】+イリノテカン(ホスアプレビタント)		
疾患名	大腸がん	適応の備考	アービタックス+イリノテカン 2コース目以降の計画登録にはこれを用いる。
適応分類	進行再発		アービタックス初回使用の患者の登録には、アービタックス【初回】+イリノテカンを使用すること。
1コース日数	14	日間	総コース数
抗がん剤投与量・投与日		アービタックス250mg/m ² day1,8、イリノテカン150mg/m ² day1	
治療スケジュール・投与日程(投与日は●)			

投与順	ルート・方法	薬剤名	投与量	投与時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	主ルート	生食50mL	1 本 / body	15 分	●							●						
	点滴静注	デキサート注射液6.6mg/2mL	1 本 / body		●							●						
		ホラミン注5mg/1mL	1 本 / body		●							●						
2	主ルート	生食250mL	1 本 / body		●							●						
	点滴静注	アービタックス	250 mg / m ²	60 分	●							●						
3	主ルート	生食50mL	1 本 / body	5 分								●						
	点滴静注																	
4	主ルート	生食250mL	1 本 / body	30 分	●													
	点滴静注	ホスアプレビタント注150mg	1 本 / body		●													
抗がん剤投与の1時間前に30分かけて点滴																		
5	主ルート	パロセトン注バッグ0.75mg50mL	1 本 / body	30 分	●													
	点滴静注																	
6	主ルート	生食500mL	1 本 / body	90 分	●													
	点滴静注	イリノテカン	150 mg / m ²		●													
7	主ルート	生食50mL	1 本 / body	5 分	●													
	点滴静注																	

※並行して投与する場合は、コメントを入力する。(例:Rp2とRp3を同時に投与開始する。)

【投与上の注意】

- ・ホスアプレビタントは血管痛が報告されているため、溶解には可能な限り生食250mLを使用すること(最低でも100mL以上)。
- ・ホスアプレビタントは抗がん剤投与の1時間前に30分かけて点滴すること。
- ・ホスアプレビタントの次に5-HT3受容体拮抗薬+デキサート注を投与して、その次に抗がん剤を投与すること。
- アービタックス:希釈は生食のみ。
- アービタックス:前投薬として、アービタックス投与前に、ポラミン注及びデキサート注が必要。
- アービタックス:投与終了後は、infusion reactionを観察するため、1時間の観察時間が必要であり、単独投与の場合は初回アービタックス投与後生食100mLを1時間かけて滴下する。
- アービタックス:投与速度は1回のみ2時間、2回目以降1時間。
- アービタックス:投与終了後は、本剤と同じ速度でラインを生食でフラッシュすること。
- アービタックス:初回投与時は、400mg/m²を2時間かけて投与、2回目以降は250mg/m²を1時間かけて投与すること。
- アービタックス+イリノテカン 2コース目以降の計画登録にはこれを用いる。
- ・day1 デキサート注は、3.3mgでも可